

18 タイル下地モルタルひび割れ補修(手動注入工法)

タイル表面からのひび割れが躯体に達し、ひび割れ幅が大きく表面にエフロを伴う補修

施工手順

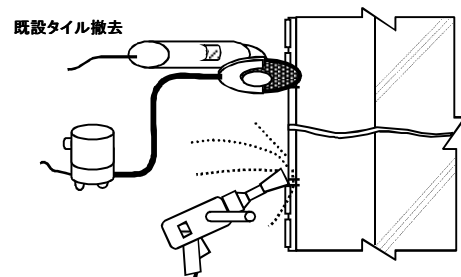
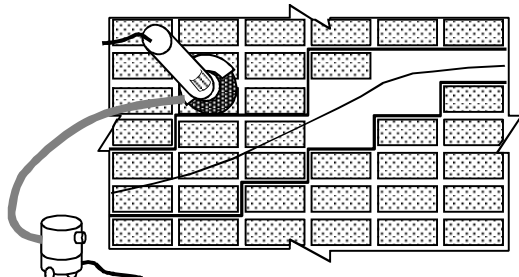
施工方法

補修範囲の確認

- ・ひび割れ部分を打診しながら劣化範囲を確認してクラックスケールで検測し、ひび割れに沿ってマーキングし補修範囲を確定する。
(復旧タイルの在庫確認及び張替部分の色変わりについて監督官の確認し、指示に従い作業を開始する。)

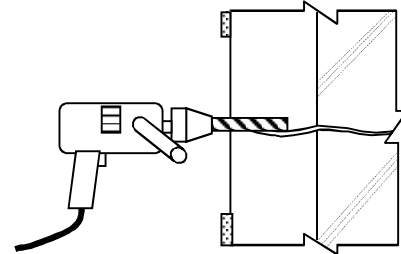
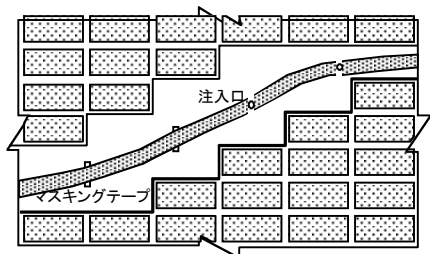
張替部分のタイル撤去

- ・ひび割れ部分のタイルは健全部分との縁をダイヤモンドカッターで切込み、チッパーで研り落とす。撤去作業は健全部タイルを傷つけない様にし、ひび割れを露出させ表面の粉塵を除去する。



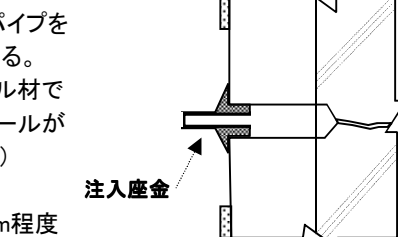
注入孔の穿孔・清掃

- ・注入位置に、注入パイプを埋込む穴をコンクリートドリルで穿孔する。(穿孔径φ5~13mm 深さ15~30mm)穿孔内の切粉をブラシでかき出し圧縮空気の吹込みで排出し清掃する。



注入パイプ・座金取付け

- ・注入パイプの取付けは、穿孔穴へφ10mmのアルミパイプを挿入し、エポキシ樹脂パテ材で固定し完全にシールする。
- ・注入孔座金の取付けは、注入口の真上に座金をシール材で貼り付ける。この時、注入穴を塞がない様に取付けシールが硬化するまで養生を行う。(ボンドクイックメンダー使用)



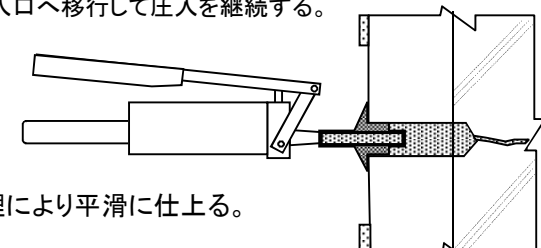
ひび割れ表面のシール

- ・ひび割れ部分を中心にシール材を、幅30mm、厚さ2mm程度に塗布し、完全にシールする。
- ・使用するシール材は、現場の要求条件に合う材質を選定し、可使時間内に使用可能な量を規定の配合比で計量し均一に混合する。



注 入

- ・注入材をグラウトガンに充填した後、注入孔へ接続し圧入を継続して隣接注入口から注入材が溢れ出るまで圧入を行い、圧入部分の注入孔を閉塞した後、順次隣接する注入口へ移行して圧入を継続する。
- ・使用する注入材は、現場の要求に合う材質を選定し、可使時間内に使用可能量を規定配合比で計量した後、均一に混合する。

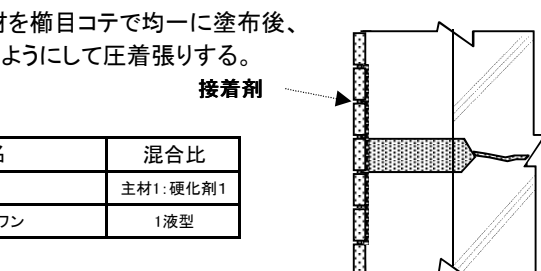


座金、シール剤除去

- (ボンドE208、E209を使用する)
- ・座金、シール材撤去後サンダー処理により平滑に仕上げる。

タイル復旧張り付け

- ・下地表面を清掃後、タイル貼付け接着材を楯目コテで均一に塗布後、割付ラインに沿ってタイル陶辺を揉込むようにして圧着張りする。
- ・塗布量: 1.5~2.0kg/m²



目地入れ仕上げ

- ・タイル張り付け接着材の硬化後、目地セメントペーストをゴムコテで目地入れしコテで平滑に仕上った後にタイル表面拭きを行い仕上げる。

用途別適応性	製品名	混合比
広範囲張付け用(2成分系)	ボンドEMS20	主材1:硬化剤1
部分張付け用(1成分系)	エフレックススタイルワン	1液型